

第44号  
平成24年

7月  
HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試してください。

山田整骨院  
熊本市中央区出水4-25-1  
096-364-7611

<http://yamasasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

<http://www.jiko-kumamoto.net/>

### 交通事故から身を守るために

酒酔い運転、携帯電話、高齢者の運転、高校生の暴走自転車等々、交通事故に遭う機会が大変増えています。今回は事故を起こさない、事故から身を守る方法を述べたいと思います。

#### 事故を起こさない

1. 健康体でいること……運転中の脳出血や心筋梗塞を防ぐこと。予防には西医学が最適です。視力、聴力は重要です。頸が原因となりますので頸を良くします。
2. ワンペダル……ブレーキとアクセルを踏み誤っての事故を防ぐため、熊本のナルセ機材が開発、商品化しました。踏むとブレーキ、右側側面についたレバーを横に押すとアクセルとなり、誤操作を防ぎます。高齢の方には必需です。

#### 事故に遭わない

1. 見込み行動に注意。自分に都合の良いように相手の行動を考えず、相手が自分にとって最悪の行動をすることを前提にして行動すれば事故は防げます。
2. 夜間歩行する際は、小さなLEDの電灯をふり回して歩きます。

#### 万一事故が起こった時のための準備

1. 運転走行の様態を撮影、記録する専用カメラを設置します。事故が起きた時、そのビデオ映像が事故の状況を客観的に証明します。責任の所在が明確になります。

#### 交通事故のいろいろな問題点

1. 高校生の自転車事故……高校生はスピードを出す。最近は携帯電話をする。相手がよけるなどの見込み運転をするため非常に事故に遭いやすい。車と事故を起こすと自分にも非があると分かっていることや世間知らずのため「いいです、大丈夫です」と言って相手の名前、連絡先、車のナンバーなど聞かずにその場を納めて、立ち去ってしまう。そして後日症状が出て、その後何十年も悩むパターンが多い。高校生は親の言うことを聞かないものでありますが、少なくとも事故に遭ったら、相手の名前、携帯電話を持っているでしょうから、相手のナンバー及び事故の自転車と相手の車両の写真を取るようにつく言っておきましょう。

2. 過失割合の問題……事故の発生について被害者側にも落度があるときには、その落度の割合に応じて被害者も負担しなければなりません。問題は過失の割合の決め方です。バイク事故で負傷した青年は、前を走行中の車が急に速度を落としたので、衝突を避けようと急ブレーキをかけて転倒した。事故直後は車の運転者が携帯を取ろうとして速度を落としたと言っていたので、最初の過失割合は6対4だったが、調書では一方的にバイクの責任と書かれ、それは違うと否定したが結局調書はそのままで、一時は10対0でバイクの落度とされたが最終的に9対1となった。このためバイクの修理費や治療費に多大な影響が生じた。調書に異議があるときにはどうしたら良いのであろうか。法律の専門家に相談してみたい。

3. 加害者が救済され、被害者がないがしろにされているような錯覚……交通事故保険の契約者(つまり顧客)が事故を起こした場合、保険会社は基本的に契約者のために動きます。加害者と保険会社のチーム対被害者の構図です。保険会社は交通事故処理のプロであり、被害者は一生に一度事故を体験するかしないかのズブの素人です。交渉で勝負になりません。相手の保険会社に対抗するため、自分の保険に弁護士特約を付けることをお勧めします。被害者は事故で体と心が傷められ、なんでこんな目に遭わなければいけないんだ、きちんと補償してくれと痛切に思うのですが、交通事故処理は法律的にマニュアル化されています。挙句には示談代行サービスを盾に、被害者に対して加害者と直接連絡するなど保険会社は通告します。それ故被害者は加害者から謝罪の言葉を受けられません。事故の処理交渉は本来、被害者と加害者が行うものであり、その代理を法律的に行うことができるのは弁護士だけです。保険会社は法律的に資格を有していません。日弁連との特約で示談代行しているだけであり、代行には厳しい条件が課せられています。その条件に合致していない代行は本来許されません。

4. 交通事故の治療……医療機関によってはレントゲン診断と湿布と投薬だけの所もあります。整骨院でも病院と同様に交通事故保険で事故の治療を受けられます。治療法はいろいろあり、自分に合う治療法を求めて医療機関、整骨院を変更しても全然問題ありません。

## あ と が き

治療を含めて交通事故の問題を検討していて、困難に直面している被害者が想像できました。まずは後遺症なく治療する方法があることを広報するため、8月より交通事故専門ホームページ『熊本交通事故, 山田整骨院』を立ち上げることになりました。身心の問題の他にも、弁護士や行政書士と連絡を取り合って交通事故被害者の悩みを解決できるように努めたいと思っています。